

医療人能力開発センター & 医学教育センター

Wind News letter No.45

No.1-44は「GUNMAS」およびHPIに掲載しています

医療人能力開発センターホームページ

<http://mec.dept.showa.gunma-u.ac.jp/>

こちらから入って各部門をクリックしてご覧ください。



2016.2.18 No.45

医療人能力開発センター

臨床研修センター/スキルラボ部門
女性医師等教育・支援部門
群馬県地域医療支援センター
看護職キャリア開発センター(仮)

内線 7736 E-mail: c-center@ml.gunma-u.ac.jp

医学教育センター

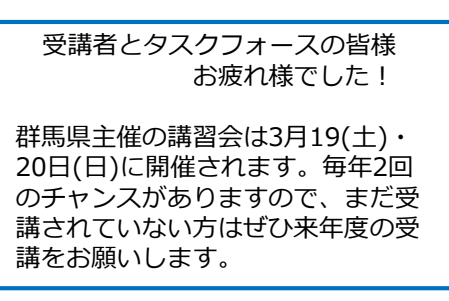
内線 8017

E-mail: ome.gunma.univ@gmail.com

平成27年度 群馬大学医学部附属病院 臨床研修指導医養成講習会 2016年1月23日(土)・24日(日)

医師臨床研修では、7年以上の臨床経験を有し、厚生労働省の規定する基準を満たした2日間の臨床研修指導医養成講習会を受講した医師に臨床研修指導医としての資格を認めています。群馬県では毎年本院内で1回、院外で1回の計2回、指導医養成講習会が開催されています。

今回の講習会は院内18名のほか、院外からも15名の参加者をお迎えし、日頃から各分野の教育・研修の中心としてご活躍の先生から卒後6年目の若手の先生まで、多彩な顔触れとなりました。日常のお立場をしばし離れ、グループワーク、ディスカッション、ロールプレイなどに取り組んでいた2日間、皆さまお疲れ様でございました！ 多少なりとも有意義なお時間を過ごしていただけますように、タスクフォース一同、精一杯務めさせていただきましたがいかがでしたでしょうか？ 経験豊富な先生方のハイレベルなディスカッションは、私たちタスクフォースにも非常に勉強になりました。大変ありがとうございました！！ (菊地 麻美)



終了後アンケートより ~抜粋~

・指導医側の意識改革にもなったと思います。教育者としての自覚を持ち、研修指導にあたっていきたく思います。

・タスクフォースの方が熱心にサポートしてくださり素晴らしいと思いました。ありがとうございました。

・実践形式の講習が多かったのは良かったです。

・受け入れやすい内容だった。研修医とのかかわりだけでなく、スタッフ・患者さんとのかかわりについても勉強になりました。

・研修医教育に関し、普段気がつかないこと、意識しないことを指摘していただける点は良かったです。

・全体的に楽しかったです。他院や他科の先生方と意見交換でき、大変勉強になりました。指導医の立場になる先生にはぜひ参加していただきたいです。

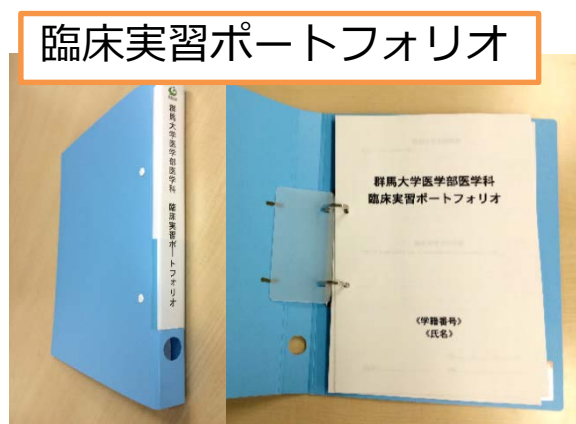
新カリキュラムの診療参加型臨床実習が開始されました

いよいよ新カリキュラムでの医学科4年生の臨床実習がこの1月より開始されました。このカリキュラムは全国医学部長病院長会議の提言に基づき、臨床実習期間の延長とともに診療参加型実習の充実に重点が置かれています。本学でも医学科教務部会を中心に、臨床実習WGおよび臨床実習運営委員会を通して様々な議論を重ねて体制を準備してまいりました。新体制で新たに運用開始する「臨床実習ポートフォリオ」と「診療参加型臨床実習の協力についての同意書」について、紹介させていただきます。

<臨床実習ポートフォリオ>

ポートフォリオとは日々の積み重ねをまとめるものです。

臨床実習ポートフォリオは、学生の臨床実習における経験と評価を記録し、蓄積することを目的としています。臨床実習を通じた貴重な経験は、実習成果記録として日々学生が記載し、一覧表に経験症例や経験手技をまとめて残していきます。また、臨床実習で学生に求められる様々な能力は、指導医からのフィードバック表を通して形成的に評価されます。形成的評価とは、学習終了時のいわゆる成績評価としての総括的評価と異なり、学習の途中でこれまでの成果や改善点を学習者に把握させ、さらに良い学習ができるよう成長を促すための評価です。ポートフォリオに日々の成長を積み重ねることで、学生が臨床能力をより効果的に高められることを期待しています。



<診療参加型実習の協力に対する同意書>

実習においては、より積極的に学生が診療に参加することが望まれます。しかし、全国共通の共用試験に合格してStudent Doctorとしての認定はあるものの、国家資格を有さない学生が行う医行為に対して、患者さんがそれを受け入れることへの自己決定権を尊重することも重要です。診療参加型実習の協力に対する同意書は、医学生の医行為に対して患者さんの意思を尊重することが目的であり、これにより病院と患者さんとの間に強い信頼関係が構築されることが望まれます。さらに、患者さんも臨床実習に主体的に関わることにより、地域全体で学生を育てる環境を作り出し、将来の県内の医療の発展につながることを期待しております。

臨床実習ポートフォリオおよび診療参加型実習の協力に対する同意書の運用には、各診療科・部門の先生方および多くの職種の方々のご協力が不可欠です。それぞれの意義をご理解いただき、ご協力、ご指導いただけますようよろしくお願いいたします。
（医学教育センター 常川 勝彦）

学習のための評価
Assessment *For* Learning

形成的評価

学習者に 学習の途中 でこれまでの成果や改善点を把握させ、次にさらに良い学習ができるように促すための「評価」。

「評価」→「フィードバック」→「改善」を繰り返し、成長を促すことが目的。

総括的評価

学習終了時に、成果を総合的にみる「評価」。いわゆる成績評価。

医学教育センターのホームページ
(<http://cme.med.gunma-u.ac.jp>)
診療参加型実習に関するガイドラインなどの資料について掲載しております。
ご活用ください。



12月19日(土)に、医学教育教授法ワークショップ(医学科FD)が開催されました。第一部では、学生による授業アンケートの集計結果に基づく、授業に対する学生の意見が授業向上委員会を代表して医学科4年生 野尻翔さんから発表されました。また、医学科4年 板橋悠太郎さんから、「学生の考える理想の医師像」についての臨床実習前講義でのグループワーク発表がありました。同時に会場内に4年生が作成した「理想の医師像」のポスター18枚が掲示され、日ごろ学生指導に携わる先生方が熱心にご覧になっていました。

次いで、授業アンケートで高評価を得た先生方2名に模擬授業を披露していただきました。

- ◆2年生「生物進化と生態系」応用生理学(医学教育センター) 助教 配島 旭先生
- ◆4年生「法医学」 法医学 講師 佐野 利恵先生

模擬授業後、両先生共に本年度のベストティーチャー石井賞受賞者に選出され、医学部長から表彰状と副賞が授与されました。受賞された先生方、おめでとうございます。益々のご活躍をお祈りいたします。

第二部の特別講演では「専門職としての医師の倫理」と題して、東北大学教授の浅井篤先生にご講演いただきました。本学が倫理について厳しく問われているこの時期に、心構えも含めて丁寧に、日々の診療でも直面する倫理的ジレンマや、医療倫理と「似て非なるもの」について具体例を示しながら教えていただきました。

FDへのご参加ありがとうございました。今後も教員、スタッフの皆様のご協力をよろしくお願いいたします。

(医学教育センター 岸 美紀子)



医療統計に関するセミナー

○超初心者向けSPSS講習：1月9日(土)

本学非常勤講師の藤田晴康先生および西澤英子先生を講師に迎え、SPSSの操作および医療統計に関する初心者向け実習を開催しました。受講者は27名(学内22名/学外5名)でした。知っておくと便利な機能の紹介などもあり、非常に満足度の高い講習会となりました。

○臨床医のための統計セミナー「後悔しないための研究デザインとサンプルサイズ設計」：1月30日(土)

保健学研究科の林邦彦先生を講師に迎え、サンプルサイズ設計のため考え方についてのセミナーを開催しました。受講者は52名(学内41名/学外11名)と、盛況でした。サンプルサイズ設計の理由から、実際の設計上のコツまで、内容の濃いセミナーとなりました。

○SPSS実習セミナー「多重比較法」：2月6日(土)

本学非常勤講師の藤田晴康先生を講師に、多重比較法について、実際のSPSSの操作実習も含めたセミナーを実施しました。受講者は15名(学内11名/学外4名)でした。最新の手法の紹介および解析可能なソフトの解説もあり有意義な3時間となりました。

お問い合わせ
群馬大学大学院医学教育センター(担当：井手野)
FAX：027-220-8017
e-mail：cme.gunma.univ@gmail.com

44

まとめ

- 事前のサンプルサイズ設計は、倫理的な側面から必須
- 介入研究(臨床試験)では、特殊な例を除き、 α , β , δ , σ の指定で比較的簡単に設計できる
- 観察研究では、曝露割合などの情報も必要
効率から、コホート、ケース・コントロールのデザイン選択
- サンプル・サイズ計算ではなく、検出力(1- β)の算出が有効なこともある

最近の多重比較の紹介・推奨

中澤港「Rによる統計解析の基礎」より

- 第一に
Holmの方法(Bonferroniの方法を改良)
- 全群比較の場合は
Peritz(ペリ)の方法
[ソフトがなければ, Tukey HSD法]
- 対照群との比較は
Dunnnettの逐次棄却型検定

166

■群馬県地域医療支援センターにおけるキャリア形成

卒前卒後の一環したキャリア形成支援に努めています。このたび、専任医師によるキャリア相談、専門医資格について等、新たにページを開設しました。医学生及び若手医師がキャリア形成に不安を抱えることなく基本領域の専門医資格を取得できるよう、継続的に情報提供を行っていきます。

■新しい専門医制度の基本領域：総合診療専門医

総合診療専門医の設置に先立ち、救急・総合医療センター小和瀬桂子先生ご尽力のもと作成された「群馬大学医学部附属病院家庭医療後期研修プログラム」を公開しています。本プログラムは、日本プライマリ・ケア連合学会認定の後期専門研修プログラムです。是非ご覧ください。

■フェイスブックをはじめました！

医学生をはじめ、研修医の先生方、お世話になっている病院関係者の皆様に向けて、セミナー・イベントのお知らせや報告を発信します。ホームページトップからアクセスできますので、宜しくお願いします。(羽鳥 麗子)



「シナリオトレーニング」始めました

スキルラボセンターでは、昨年11月から医学生を対象とした「シナリオトレーニング」を始めました。シナリオトレーニングとは、単に手技の習得だけを目的とするのではなく、様々な「シナリオ」のもと、その状況における判断や、患者さん・スタッフとのコミュニケーションスキルもあわせて学ぶための手法です。

第1回はマラソン大会の救護スタッフが大会中に倒れたランナーを蘇生するシナリオでBLSを行いました。ここでは、現場でのバックバルブマスクの組み立ても大きなポイントとなりました。また、蘇生して終わりではなく、なぜこの人は倒れたのか？と原疾患を考えていくところまで学習しました。第4回ではもう一度BLSを行いました。今度は横断歩道で倒れた老人に対する処置です。いつものように、「周囲の安全良し！」とは言えない状況でのシナリオに悪戦苦闘しながらも、状況に応じた対応を学びました。その他、第2回は外科的処置（縫合）を伴う医療面接、第3回は救急外来での急変対応について、第5回は臨床推論基礎編として、問診で得た情報からプロブレムリストを立てるところまでを学びました。

今後の予定として、第6回は臨床推論応用編、第7回は胸部聴診を伴う医療面接のシナリオを予定しています。詳細はスキルラボセンターホームページでお知らせしていく予定です。非常に活気のあるセミナーですので興味のある方はぜひ覗いてみてください。また、様々な専門領域における面白いシナリオを大募集しています。「こんなのどう？」というのがありましたら、ぜひスキルラボセンターまでお知らせください。よろしくお願いします！(田中 和美)



編集後記 (2016.2.18)

今年最初のニュースレターですが、例年のイベントに加え、新たな企画も盛り上がり、またあっという間に紙面が埋まりました。2学年の臨床実習となっていますが、ポートフォリオや診療参加型実習の同意書など、いよいよ新しい医学教育の始まりを実感します。指導する先生方も大変かと思いますがどうぞよろしくお願いします。

新年の誓いもすでに揺らいでいる昨今ですが、今年は何か新しいことを残したいと思っています。(YN)